

真狩村立学校情報機器等の  
整備（更新）に関する計画

令和7年3月

1. 端末整備（更新）計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	118 (小：77) (中：41)	119	123	123	121
② 予備機を含む 整備上限台数	135	136	87	45	43
③ 整備台数 (予備機除く)	0	47	37	0	37
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	47	37	0	37
⑤ 累積更新率	0	39.5%	68.3%	68.3%	100.0%
⑥ 予備機整備台数	0	7	5	0	5
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	7	5	0	5
⑧ 予備機整備率	0	14.9%	13.5%	0	13.5%

(端末の整備・更新の考え方)

5年更新を基本とするが、故障や児童生徒数の増加によっては随時整備する。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

●対象台数

・144台

●処分方法

- ・使用済み端末を公共施設や福祉施設など地域で再利用 0台
- ・小型家電リサイクル法の認定事業者に再使用・再資源化を委託 0台
- ・資源有効利用促進法の製造事業者に再使用・再資源化を委託 0台
- ・その他（廃棄） 144台

●端末のデータの消去方法

- ・自治体の職員又は処分事業者へ委託

●スケジュール（予定）

- ・令和8年4月 処分業者の選定（委託する場合）
- ・令和8年4月 新規購入端末の使用開始
- ・令和8年5月 使用済端末の事業者への引渡し

## 2. ネットワーク整備計画

### ●必要なネットワーク速度が確保できている学校数

3校中3校 100%

### ●ネットワークアセスメント

必要なネットワーク速度が確保されていない状況になった場合は、ネットワーク構築業者と対応について協議し検討する。

ネットワーク環境推定値（令和7年1月測定）

学校名	教室名	測定値 (Mbps)
真狩小学校	普通教室（1年）	448.0～490.0
	普通教室（2年）	364.0～392.0
	普通教室（3年）	462.0～546.0
	普通教室（4年）	364.0～406.0
	普通教室（5年）	448.0～518.0
	普通教室（6年）	336.0～392.0
	特別支援教室（知）	336.0～406.0
	特別支援教室（情）	364.0～392.0
	通級指導教室	336.0～406.0
体育館	378.0～406.0	
真狩中学校	普通教室（1年）	406.0～420.0
	普通教室（2年）	420.0～434.0
	普通教室（3年）	420.0～518.0
	特別支援教室（知）	392.0～462.0
	特別支援教室（情）	406.0～490.0
	体育館	392.0～462.0
真狩高校	普通教室（1年）	476.0～574.0
	普通教室（2年）	434.0～560.0
	普通教室（3年）	406.0～518.0
	体育館	434.0～448.0

### 3. 校務DX計画

文部科学省「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」における提言に基づく次世代の校務DX化に向けて、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」の項目を実現するため、本村においては、次の事項を重点的に取り組む。

#### ●校務系・学習系ネットワークの統合

学校や教職員の事情に合わせた柔軟な働き方を可能と出来るようにゼロトラスト化に基づくアクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じ、村、学校、関係業者と連携を図り、ロケーションフリーによるネットワーク接続を可能にする環境構築について検討を行う。

#### ●各種ツールの活用

校務や授業の効率化等を図るため、デジタルドリル等の学習系データ、児童生徒の成績等の校務系データや行政データなどを管理ツール（ダッシュボード等）で可視化できるような環境づくりや生成AIの活用等について検討を行う。

また、ペーパーレス化を推進し、FAXでのやり取りや押印の廃止へ向け、クラウドサービスを利用することに併せて、各種関係機関に働きかけるなどの検討を行う。

#### 4. 1人1台端末の利活用に係る計画

##### ●1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」の内容並びにこれらに引き続く政府の議論では、ICTを活用し業務の効率化を図るとともに、児童生徒にきめ細かい指導・支援をする「個別最適な学び」と、一つのことを多様な他者と取組むことによってより良い学びを生み出す「協働的な学び」が求められている。

幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し、児童生徒が持続可能な社会の創り手となることを目標に、一人ひとりのペースに合った学習ができるように1人1台端末を効果的に活用することで個に応じた指導を進めるとともに、教職員の負担を軽減することを目指す。1人1台端末や通貸ネットワークについては定期的に検査・更新をし学習が止まることのないような策を講じるよう検討する。

##### ●GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想の実現に向けて、令和2年度末までに全児童生徒分の1人1台端末と通信ネットワーク等を整備し、学びのツールとして学校現場において日常的な利活用を図るとともに、家庭では長期休業中の課題等において利活用を図り、児童生徒の学習活動の充実に繋がった。

ネットワークトラブル等においては、GIGAスクール運営支援センター補助金を活用し、早期に対応できるように体制を整備し児童生徒の学習に支障が生じないように努めた。

感染症流行期においては、家庭待機等により登校できない児童生徒の学びを保障するため、自宅において通信ネットワーク環境が整っていない家庭に対してモバイルルーターの貸出をした。

反対に、教職員・教科によっては1人1台端末の利活用について差が見られたため、ICT機器の利活用の指導を行うとともに、より恒常的なICT支援が必要である課題が見られた。

##### ●1人1台端末の利活用方策

GIGAスクール構想の実現に向けて、令和2年度末までに整備した全児童生徒分の1人1台端末はタッチパネルの不具合やバッテリーの劣化などにより一部で既に更新を実施したが、「1. 端末整備（更新）計画」でも記載したとおり、さらに予備を含めた機器の更新、通信ネットワークの維持・改善に計画的に取り組めるように検討する。

また、トラブルがあっても迅速に対応できるようGIGAスクール運営支援を外部に委託し、1人1台端末を日常的に使用出来る環境を整え、通信ネットワークの状況把握や教職員研修の充実に図り1人1台端末の積極的活用について推進するとともに、教職員の働き方改革に合わせたクラウド環境をベースとした校務DXについても検討する。

指導者用デジタル教科書及び学習者用デジタル教科書、学習ドリル等のデジタル教材を導入し、学校での授業や家庭において効果的に利活用することで個別最適・協働的な学びを充実出来るように検討する。

さらに、不登校児童生徒には授業の参加・視聴の機会、希望する児童生徒には教育相談の実施、外国人児童生徒には学習活動等の支援、障害のある児童生徒等には実態に応じた支援等、様々な場面に応じて1人1台端末を日常的に利活用するための各種ツールを充実し学びの保障が出来るように検討する。